

マタタビ

学名： *Actinidia polygama* Planch.ex Maxim. 科名：マタタビ科



マタタビは北海道から九州までの山地に生える落葉性のつる性の植物です。雌雄異株であり雄花が咲く雄株と、雌花と両性花が咲く雌株があります。マタタビの果実を食べると、疲れ切った旅人でも又旅（マタタビ）が続けられるほど回復することから、その名がつけられたという説があります。ネコにマタタビといわれるように、ネコはマタタビが大好きです。ネコにマタタビを与えると興奮状態に陥ったり、酔ったように陶醉します。これはマタタビ踊りと呼ばれるもので、マタタビに含まれる「ネペタラクトン」が原因で引き起こされます。ネコに限らずネコ科の動物であれば、おおかた反応します。

マタタビアブラムシなどの昆虫の産卵で虫こぶとなった果実を熱湯殺虫して乾燥させたものは、木天蓼（モクテンリョウ）と呼ばれ、冷え性、神経痛、腰痛などに使われる生薬です。健胃薬として煎剤を用いるほか、神経症、冷え性などにはホワイトリカーにマタタビを漬けこんだ薬酒を用います。茎葉を浴湯料にすると神経痛に良いとされています。

生薬名 木天蓼（モクテンリョウ）

薬用部位 果実の虫癭（ちゅうえい）、枝葉、根

薬効 鎮痛、強壮、利尿作用

用途 冷え性、神経痛、リウマチ、腰痛などに用いられる。

コガネバナ

学名： *Scutellaria baicalensis* Georgi 科名：シソ科



コガネバナは中国北部からシベリアが原産国で、日本では薬用や、観賞用としても栽培されているシソ科の多年草です。人気な山草のひとつであるタツナミソウの仲間で、観賞用としてはバイカルタツナミソウとも呼ばれています。花は6〜9月にかけて咲きます。ミヤコグサという植物にもコガネバナと別名があります。ミヤコグサは生薬名を百脈根（ヒヤクミヤクコン）といい、今回紹介する植物とは別の植物となります。

この「コガネバナ」という名前から黄色い花が咲くと思う人が多いかと思いますが、花は黄色ではなくきれいな紫色をしています。コガネバナという名前の由来は花の色によるものではなく、根の内部が黄金色であるためです。そして根の周辺の皮を取り除き、乾燥させたものが、黄芩（オウゴン）と呼ばれる生薬になります。

黄芩にはフラボノイドの一種であるバイカリン、バイカレインなどの成分が含まれており、適用としては高熱による喉の渇きや吐き気、下痢や排尿障害、鼻血などに対して他の生薬と組み合わせ使用されます。

生薬名 黄芩（オウゴン） 局方生薬

薬用部位 周りの皮を除いた根

薬効 緩下、消炎解熱、利尿作用

用途 健胃消化薬、止瀉整腸薬、解熱鎮痛消炎薬、精神神経などに用いられる。黄芩湯（オウゴントウ）、黄連解毒湯（オウレンゲドクトウ）など

